

税金のありがたさ

筑西市立下館中学校

三年 浅野 真央

私は、幼い頃母と買い物に行った時にその商品本体の値段より多くお金を払っていたのを見て、どうして余計なお金を払わなければならないのだろう、このお金はどこに行くのだろう、と疑問に思っていたのを覚えています。私たちの身の周りではちばん日常に関わってくるのは、「消費税」だと思います。

買い物のたびに、毎回毎回買った分だけの消費税を払っていると損をしているようにしか思えません。しかし、私は学校で教科書を見ている時にふと、「この教科書は、税金によって無償で供給されています。」というものが目に入ってきました。私がいちばん驚いたのは、教科書は税金によって私たちの手元に来ていることでした。私は気になって持っていた全ての教科書の裏表紙を見ました。全ての教科書にその文が書かれていました。それを見たと同時に、この教科書を持っているのは私だけではない、日本中の子供たちがいろんな教科書を使っているんだと思いました。それは本当にすごいことだと思います。全ての生徒に、全ての教科書が税金によって配られているのです。私は、改めて大切に使うべきだと思いました。教科書だけではありません。私たちが普段当たり前のように通っ

ている道路や通えている学校も税金によって成り立っています。もっと利用しやすくするために行われる道路の工事や学校の工事。これは全て私たちのためです。道路があまり整備されていないと歩きにくいし、運転だつてしづらいです。学校でもいろいろなことが整っていないと今よりもっと生活しにくいはず。このように、私たちの身の回りのことで考えてみると、税金のありがたみがよく分かります。

ですが、これらのことはいくら税金だからといって無料で行われているわけではありません。私たちのお父さんやお母さん、大人の人たちが一生懸命働いてくれたお金です。

これらのことを知ってから、私は税金を払うことに対して無駄だとは思わなくなりました。これから、私は毎日働いてくれている人たちへの感謝の気持ちと税金の大切さを忘れずに生活していきたいです。